

第2回上牧町総合教育会議

議事録

- 日 時 平成29年2月21日（火）午前10時00分から午後11時45分
- 場 所 上牧町役場 2階 第2会議室
- 出席者 今中町長、松浦教育長、宮城委員、小泉委員、東谷委員、暁委員
- 事務局 爲本総務部理事、松井課長補佐、俵本係長、野村主査
藤岡教育部長、中川教育総務課長、塩野社会教育課長
- 次 第 開会
町長挨拶
案件
 - 1 上牧町教育大綱（案）に関する検討について
 - 2 その他閉会

●議事概要

町長挨拶

- ・皆さんもご存じのとおり、少子化となっている。各市町村が人口減少に伴う子どもの教育をどのようにしていくのか、頭を痛めておられるところである。
- ・これまで厳しい財政状況であったが、耐震化の事業（学校校舎等）もほぼ終わっている状況である。また、障害の持つ子どもたちの相談や指導の体制「ペガサス教室」の実施や昨年2学期からの「まきっ子塾」、小学1年から3年生の低学年のうちに学習習慣や希薄になっている規範意識を身につけてもらうという考え方のもとで進めている。
- ・「まきっ子塾」については、現在180名で、いろいろな方から話を聞くが、大変評判がよく、続けてもらいたいという意見ももらっている。
- ・これから、少子化にもなっていくことであるが、子どもたちの教育環境を整備しなければいけない。昨年行った子ども議会でも夏の暑い授業について何とかしてほしいという声が大半であった。そのほかグラウンドの問題などいろいろ出てきている。これからはそういったところにも気を配りながら環境を整えていく必要がある。
- ・平成29年度については、そうした部分の調査研究をする年度にしたいと考えている。
- ・子どもたちを育てていくというのは、私たちの責任であるので、環境がすべてというわけではないが、これからは環境と中身を併せてやっていくということになる。
- ・他市町村とのサービス合戦ではないが、今保護者の方々は簡単に住所、住民票を異動されるという傾向にあるので、そういった部分も考えながら行政も進めてい

く必要がある。

- ・他町へどんどん子どもたちが流れていくということになっても、総合計画や総合戦略と合致しないわけであるので、上牧町としては総合的なものの考え方をするのが一番大事なことであるという認識のもと進めていきたいと考えている。

事務局（政策調整課）から「上牧町教育大綱（案）」についての説明

東谷委員 配付していただいた上牧町教育大綱（案）の印象としては、非常にわかりやすく、簡潔にまとめられている印象である。ただ、内容についてはシンプルすぎるのではないかと思う。地域の実情によって教育も違ってくることから、もう少し上牧町の特徴や実状を盛り込みながら、内容を加えていったらどうか。

また、上牧町の特徴、実状であるが、人口減少に対して教育はどういうことをしていかなければいけないのか。人口減少の歯止めをかけるにはどういった教育をしなければいけないのか。というのも内容に盛り込んでいけたらち考える。

今中町長 現在は、人口減少、少子化が大きな要因になっている。昨日にマリッジサポーター（昔でいう仲人）の研修が終わり、修了式の場でも話をさせてもらったが、今の若者が結婚を望まないという時代になっている。特に女性より男性の方が望んでいない。邪魔くさいとか束縛されるというものの考え方で結婚をしないというような時代になっている。ではその原因は何かということであるが、教育で結婚して子どもを生んで育てる、そういったことが教育で始動されているのかどうか。そういうことが一つ大きな影響があるのか、関係があるのかと考えている。小学校から教えるのか中学校から教えるのかは分からないが、人間は言葉を発し、服を着て、生活をしているわけであるが、もともとは動物である。子孫を残すということが薄れてきているのかなという気持ちでもいる。教育のなかでどうのように子どもたちに教えていくのがいいのか、今みたいな風潮がずっと続けば人口減少は止められないのではないか。スマートフォンで連絡やゲームなどして一日を費やしているという、車も買わない、ファッションも気を使わない、ただ、そういった機会にのみ頼った生活をしているという若者が増えてきている。そのあたりを教育のなかで子どもの時からしっかりと教えるというのも大事ではないか。コミュニケーション不足や悲惨な事件にも繋がっている要因ではないかと考える。

東谷委員 「3 教育大綱の期間」にもあるように、「本大綱は策定の日から5年間をもって改訂の区切りとしますが、随時見直しの機会を確保するものとします。」とあり、とりあえずスタートはこの形でいいのではないか。

今中町長 話は少し横道にそれるが、婚活イベントも開催しており、先般も7組のカップルが成立した。町外からも応募があるらしいが、大きくものを考えると日本国中で問題となっているわけがあるので、一組でもカップルが成立してもらったらいいと考える。後にもあるが「上牧らしい」というのが、何が上牧らしいのか、少し考えないといけない。中身についても今話があったようなことにつながっていくのではないかと考える。

松浦委員 隣国のように人口を減らす政策をわが国は行っているわけではない。全国で人口を増やしていこうというビジョンで、この上牧町でもそのビジョンを進めているところである。教育の側面に立って何ができるのかという話し合いをするのが総合教育会議だと思っている。今、「上牧らしい」という話ができたが、「上牧独特の教育」、「上牧に行けばこれをしてもらえる」、「上牧はこれがあるから住みたい」、「上牧にはこれをしているらしい」など、様々な方向性のなかで、上牧に住み着いてくれる方が多くいればいいなと思う。その一つが今年度から実施している「まきっ子塾」や数年前から実施している「ペガサス教室」を実施しており、どの部分に焦点をあてるのか、本当にきめ細かい教育、例えば、しんどい状況にある子どもたちにも手を差しのべる支援をしてくれる、親御さんへのサポートもしてくれる。今、上牧町では近隣町にない旗印を二つ挙げさせてもらった。ただ、そればかりをしても、ほかの手抜きになってしまう。スポーツや各教科についても深めていく教育も必要になってくる。そういった部分で「上牧らしい」とは他の町にない特化した部分を明記してもらってもいいのではないかと考える。そうすると東谷委員が言う部分についても若干補えるのではないかと考える。

暁 委員 「上牧らしい」と部分について、上牧らしいって何かと考えていたが、今教育長が言っていたように、上牧独自の教育を後々少しずつ進めていこうというのを具体的に明記していく方向性をいっていただいたので、ちょっと胸のつかえがとれたというか、その部分がクリアになった。質問であるが、この教育大綱（案）であるが、このままの状態でも審議されていくのか、これをもう新たにつくり直すのか、先ほどの話を盛り込む余地はあるのか。

今中町長 あくまでも案であるので、委員皆さん方に意見を出してもらえやすくするためのものである。まず案をお示しさせていただいて皆さんに審議をしてもらい、修正をかけて最終的に仕上げていくことになる。また、教育大綱の期間は5年であるが、随時見直しの機会を確保するものである。一度つくったからといって、絶対に変えないというものでもない。当然時代の変化や考え方も変わってくるので、現実的に即したようなものを示していく必要がある。見直しが必要なときに見直しをかけていくということによって理解していただきたい。

い。

今、教育長からも話があったように、上牧は障害をもつ子どもたちの保護者に安心してもらおうというものの考え方で2つの事業を実施している。これを継続し育てていくという考え方で進めていく必要がある。

東谷委員 上牧町の教育大綱については、今お示ししている案でスタートして、見直しが必要であれば、随時見直しをかけていくことはどうか。平成29年4月に総合計画もスタートすることであるので、時期的にもいいのではないか。またあ、内容的にも間違っておらず、問題はないと考える。

今中町長 東谷委員からご意見をいただいたが、内容的にも間違っておらず、問題はないということであるので教育大綱はこれでスタートすることでご意見をいただいているが、そのように進めてよろしいか。

(各委員から反省の声)

この大綱については大きな指針であるので、この下に基本計画や実施計画があるべきものであり、大綱はあくまでも理念などを示しており、細かなものについては別書きで示していくことになる。

今、お示しをしている大綱(案)については、委員皆さんからの同意を得ることができましたので、これで出発させていただきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

閉会